

(特選)

☆影うすき木立のあはひ冬桜

進

冬桜は春の桜と較べると目立たない、「影うすき」が冬桜の特徴を捉えてをり、効果的な措辞になっている。表面的ではなく、一步踏み込んだ効果的な客観写生の秀句である。

・入日さす建礼門や暮早し

繁好

御所の建礼門に夕日が当たっている。初冬の日暮れは早く寒さを感じるほどだ。吟行でなければ詠めない句。情景が鮮明に目に浮かぶ秀句。

・しぐるるや一叢青き布袋竹

進

御所の一角に布袋竹の竹藪があり、そこだけ青々としている。折から時雨がさつと通り過ぎる。布袋竹は珍しい竹。中七の「一叢青き」がこの句の眼目。

(入選)

- ・前撮りの新婦の笑みや冬の虹
- ・禁門の昔語りや紅葉散る
- ・百年の樟の根元や実千両
- ・動き良き女庭師や夕時雨
- ・冬菫少女の像の遠まなこ

繁好
かつを
玄舟
繁好
進

(佳作)

- ・冬の虹京都の御所のとこしなへ
- ・冬めくや異人溢るる古都の街
- ・水琴窟の細き流れや名草枯る
- ・降りしきる橡大樹の枯葉かな
- ・バラ園の赤白黄と咲きにけり
- ・冬帽子京都御苑の檜皮葺き
- ・うす日さす御苑の西に秋の虹
- ・森深く日の当たりたる黄葉かな

進
かつを
繁好
繁好
きよし
かつを
きよし
玄舟